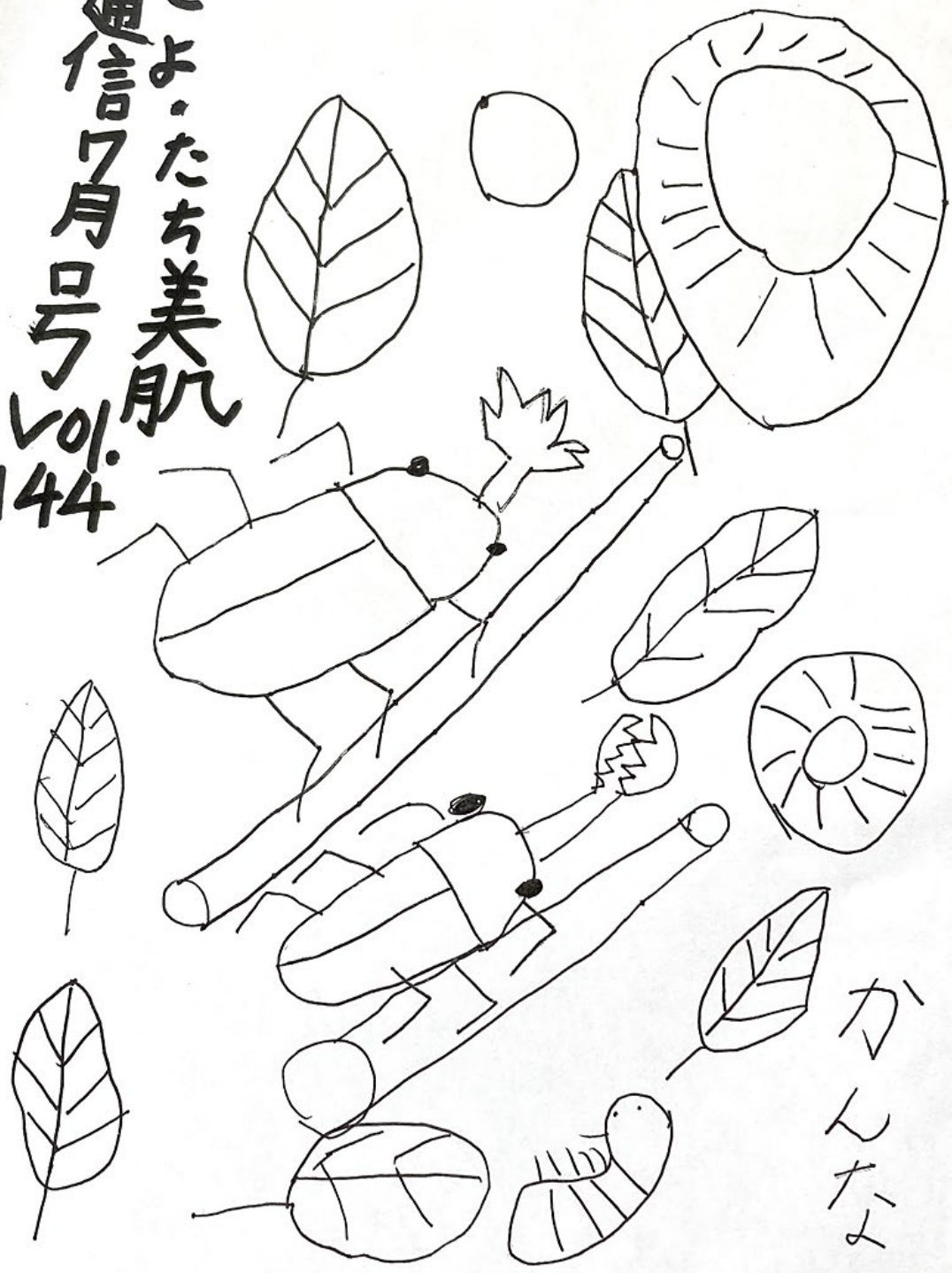


とよ・たち美肌
通信ワ月ロ号
Vol. 144



かんな

July



今月号のとまたら美肌通信の表紙は、

太陽がサンサンとかがやく 7月の良い天気の日、

大好きなカブトムシとまうちゅうが 元気に

木の上で 楽しんでいる絵です!!

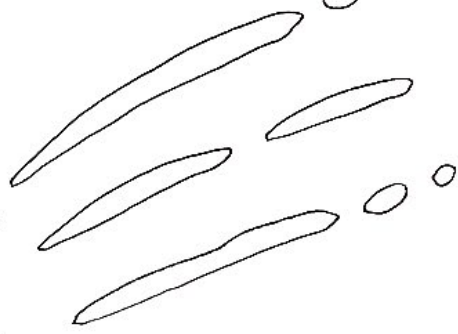
スイミングやバスケットボールなどのスポーツが得意で、

魚つりや虫とりが好きな女の子が 描いて

くださいました 😊 ありがとうございます。

院長はじめスタッフ一同

バリエリ感謝いたし御



最近のよ・たちの中で、現代社会は
多様性に満ち溢れていると度々触れてきたが
世間には 昔常識 今非常識'と考えられているもの
の中にも その一端を垣間見ることが出来る。

例えば私の幼小児期には、「男だから・女だから」
「男のくせに・女のくせに」とよく言われていた。

しかし今はタブーとされているが、果たして100%否定
するべきなのだろうか。例えば「男は働いて一家を
支えるものだ」と誰かが言ったとする。その事はつまり
家事や育児は女がやるものだ」との考えとは、ニアリ
イコールになってしまう。「男のくせに泣くな」とか
「女のくせに言葉使いが汚い」という事は昔はよく
言われたことだ。では「女は泣いていい」「男は
言葉が汚くていい」とはなりません。いいえ、ならな
いのです。今の社会はこれらを認めません。
男女共同参画社会の実現を目指すため、というのが理由たさうです。しかし私は少々意見が
異なります。

以前に戻りますが、「男だから・女だから」「男のくせに・女のくせに」という考え方は、個人個人で持っていて良いと思うのです。ただそれを身分又は社会的土壌位や性別を理由又は背景にして、他者に押しつけることが問題なのであって、他者の考え方を承認していれば何の問題もないはず"です。例えば男が外で金を稼いで、女は家を守るという価値感の男女であれば、その家庭は円満なのではないでしょうか。飽くまで他者に自分の考えを押しつけないで、承認していれば何も問題は無いはず"です。

大切なのは考え方を押しつけないこと、そういう考え方もあるよねと承認することです。

男女共同参画の社会思想を理由に、何でもかんでも男女差別だ"と意気かっている人こそ、自分の立場を利用してその考え方を強制している唯我論者なのではないだろうか。 院長, 拝